

平成13年度 施策別 取組 方向

部局名：生活部、教育委員会

施策番号	施 策 名		
131	人と地域を支える文化の振興		
<p>【2010年度の目標】 身近な文化施設の整備や活用が進み、文化活動に親しむ人びとが増加するとともに、質の高い芸術文化を鑑賞する機会が各地域で提供されています。また、それぞれの地域の特色のある文化遺産や歴史的景観の継承、活用が進むことで、地域の文化が住民に親しまれるとともに、県内外との交流が活発に行われています。</p>			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
県民文化祭の参加者数	6万7千人	15万6千人	11万4千人 (20万人)
まちかど博物館、 ミュージアムの設立数	94館	197館	114館 (150館)
子どもを主体とした文化 芸術活動公演数(年間)	25回/年	12回/年	34回/年 (52回/年)

1 平成11年度の取組

(1) 平成11年度の取組概要とその成果

身近なところで質の高い芸術文化にふれる機会を提供するため、文化会館、美術館、博物館を活用し、鑑賞型事業や企画展などの各種事業を展開した。また、多様な文化創造の環境づくりや歴史文化の継承・活用などを推進するため「まちかど博物館」づくりや県民文化祭の開催等に取り組み一定の成果が得られた。

(生活部)

第5回みえ県民文化祭について、開催地域との連携や他部門の文化団体などとの共催を積極的に推進し、県内11市18町村の会場で52事業を開催した結果、協賛事業を合わせ155,943人の参加者数となり、前年度に比較して7万2千人強の大幅な増加となった。

文化会館において、質の高い芸術文化を鑑賞する機会を提供するため30本の鑑賞型事業や企画型事業を実施し、入場者・参加者あわせて34,545人と前年度に比較して2,369人の増加となった。

地域の特色ある資源を活かした地域づくりを進めるため、伊賀地域で「まちかど博物館」の設立に取り組み、91館の博物館をオープンした。

(教育委員会)

美術館において、様々な年齢層に対応できるような常設展、企画展(10企画)の展覧会事業の他、美術講演会、移動美術館、子どもたちのためのワークショップ、公開美術講座等の教育普及事業を実施し、入場者数118,388人と前年度に比較して2,682人の増加となった。

博物館において、三重県の自然、歴史を総合的に学習できる機会として、常設展、ミニ企画展(7企画)、出前ミュージアムの展覧会事業の他、体験教室等の教育普及事業を実施し、入場者数8,843人と前年度に比較して830人の増加となった。

(2) 平成11年度の取組に対する問題点

(生活部)

文化会館の鑑賞型事業、企画型事業については、これまで文化振興事業団への委

託事業として実施してきたが、現下の厳しい財状況下においては、事業実施本数が目減りする一方であることから、一定の事業本数が確保できる新たなシステムの構築が必要である。

(教育委員会)

博物館は築46年を経過し、展示室が狭く収蔵資料を十分に展示出来ない、老朽化により人文系資料(古文書や浮世絵など)は長く展示出来ない等、貴重な資産の保存・管理・展示に十分対応出来ない状況にある。

2 平成12年度の取組と成果見込み

文化会館などの文化施設を活用した各種の事業を実施し、質の高い芸術文化にふれる機会を提供するとともに、俳句のくにづくりや県民文化祭の開催などにより文化振興を図る。

(生活部)

平成11年度に「みえ県民文化祭」のあり方について検討し、まとめられた「リニューアル構想」を踏まえ、県民各年齢層の積極的な参加による県民文化祭として取り組み、15万6千人の入場者を目指す。

歴史文化の継承・活用を図るため「まちかど博物館」の設立を推進し、津・久居地域及び東紀州地域の2地域での設置を目指す。

俳句のくにづくりの一環として取り組んでいる全国俳句募集事業について、20万句の応募を目標に事業展開を図るとともに、俳句を活かした人づくりの観点から、新たに小・中・高等学校を対象とした「学校募集」に取り組む。

(教育委員会)

美術館、博物館ともに住民ニーズを的確に把握し、学校週5日制を展望した事業を実施するなど、サービスの向上に努める。

美術館においては、美術館モニター制度を創設し、県民の声をより積極的に反映するシステムづくりに取り組む。

3 平成13年度以降に向けての取組方向

文化に親しみ、心豊かな生活を送っていただくため、身近でさまざまな分野の芸術文化に多くの人々が触れることができる機会を提供するとともに、文化活動の推進母体となる各種団体の育成・強化に取り組む。

また、文化資源等を活用したまちづくりや、県民の自主的、主体的な幅広い文化活動などを支援していく。

(生活部)

文化は、生活のあらゆる場面で県民一人ひとりが継承し、創造しながら育まれるものであり、県民のみなさんが、各地域の特色を活かしながら、自発的・積極的に文化活動へ取り組んでいただくことが大切である。行政は、このような県民の文化活動へのエネルギーを醸成・発展させるための基盤整備や環境づくりといった支援の役割を担っていくという基本的な立場に立って、各種文化施策を推進していく。

俳句のくにづくりの推進にあたっては、2004年(平成16年)の「芭蕉生誕360年」を視野に入れた取り組みを行うとともに、俳句協会や教育委員会と一体となって俳句の基盤づくりを推進する。また、全国俳句募集事業について、「芭蕉生誕360年」を契機に民間団体等へ移管していくため、受け皿づくりや経費面を含めた事業のあり方について見直しながら取り組んでいく。

「みえ県民文化祭」についても、三重県文化団体連合会を核とした民間主導の事業へ移行するなど、地域に根ざした個性豊かな地域文化の形成に向けた取り組みを推進する。

(教育委員会)

さまざまな年齢層に対応した美術作品の鑑賞機会を充実するとともに、展示・収蔵機能の拡充を行い、多様な美術館教育、情報サービスなどの美術館活動を展開する。

貴重な県民の収蔵資料を適切に保護、保全し、多様なニーズに対応するPFI方式等による博物館整備の検討を行う。また、NPO等との協働、資料のデジタル化をさらに推進するとともに、自然体験を重視した生涯学習を实践する場としていく。

全国・近畿高等学校文化祭への参加支援と三重県高等学校文化祭の支援を行い、高校生が自ら企画・立案することにより、豊かな創造性としなやかな感性を身につけるとともに、活力ある活動を地域へと広げ、地域と一体となった芸術・文化活動を展開する。